



貴重な北海道産 広葉樹の供給

資源活用第二課

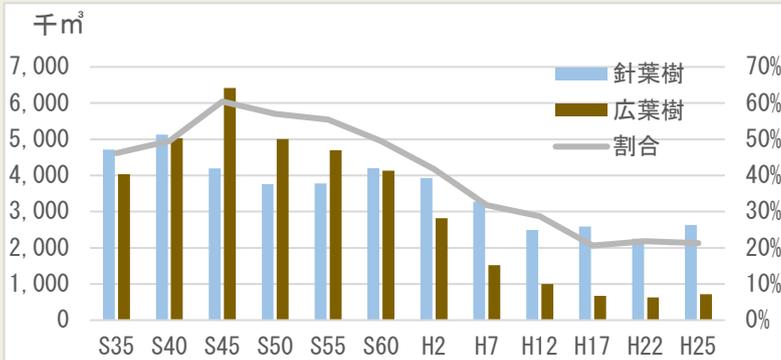


北海道は、ミズナラ、ウダイカンバ、ヤチダモ、セノキ、イタヤカエデなどの広葉樹資源が豊富であり「広葉樹の産地」として知られてきました。特に、旭川地域は広葉樹製材品関係の工場や木材取り扱い業者が多く、北海道はもとより全国屈指の広葉樹の集散地として名を成しています。



人工林の中に点在する広葉樹

昭和30年代から40年代半ばにかけて、国有林の広葉樹の伐採量は増加し、伐採量全体の約半分を占めるまでになりました。しかしながら、平成10年代に入り広葉樹材は、質・



針葉樹・広葉樹別素材生産量の推移（北海道）

（木材需給報告書より）

量とともに低下し供給量も著しく減少してきた結果、現在では伐採量全体の15%程度の水準にまで落ち込んでいます。

現在の広葉樹の供給は、人工林資源の成熟に伴い、針葉樹人工林の中に点在する広葉樹が主体となってきました。広葉樹製材の分野では、建築内装材、家具、フローリング、楽器など北海道のみならず本州にも移出していました。家具用材については、最盛期の昭和30年頃には約13万m³が輸出されるほどでした。

特に、旭川地域は、家具産業の盛んな地域として国内有数の規模にまで発展しました。昭和30年代から40年代にかけて、婚礼家具であるタンスや食器棚などを中心に、北海道外に拡大していききました。最近では、大量生産から多品種少量生産、受注生産へとシフトし、時代に合わせて変化してきています。

また、木工技術を継承するための人材育成に対して、地域や行政の体制が整っていたことも産業として定着



旭川銘木市での展示状況

してきた一因と言えます。このような背景の中、「北海道産銘木市（旭川林産協同組合）が昭和40年代から開催され、現在（10月）まで409回を数えており、全国各地の木材業界の方々が北海道産の優良な広葉樹を求めて参加されています。国有林も開催当初から出品していますが、広葉樹天然の伐採量減少に伴い、出品量は減少し、特に大径の良質材は少ない状況となっています。



旭川銘木市での入札の様子

元での採材の工夫などの取り組みにより、最近では、三千m³程度を供給してきています。10月13日に開催された銘木市では、道産広葉樹を主に約620m³が集荷され、そのうち国有林材は214m³を出品しています。広葉樹の伐採時期は、これから冬期間にかけてピークとなります。昨年1月の出品量は民有林材も含め全体で約3,000m³であったことから、冬季に向けて国有林材、民有林材共に広葉樹の出材は増えてくると考えています。

また、今回銘木市では、10月の木づかい推進月間の取組の一つとして、石原森林整備部長が国有林材のPRと広葉樹材利用拡大、木材利用の推進などについて参加者にPRしました。



石原森林整備部長(中央)による国産材のPR

北海道森林管理局では、貴重な広葉樹資源を有効に活用していただくため、これからも銘木市へ積極的な出品を行い、さらに、銘木以外の広葉樹一般材に関しても、より効果的な利用がされるよう取り組んでいく考えです。



旭川銘木市に出品された広葉樹の小中径木



旭川銘木市に出品されたウダイカンバの優良材

北海道産広葉樹については、ウダイカンバ、ミスナラ、セン、ヤチダモ等の優良材が、突き板(※1)や高級家具材、ウイスキー等の樽材として注目されているだけでなく、今まで製材としてあまり利用されなかった、シラカバやハンノキ等の中小径木も有効に利用されてきています。

また、都道府県別の広葉樹資源量(左下グラフ)において、北海道は群を抜いて多く、全国の広葉樹産業から注目されています。

北海道の林業・木材産業の成長産業化を目指すためには、トドマツ、エゾマツ、カラマツ等の成熟した人工林資源を活かしたCLT(※2)等の新たな需要開発・拡大と併せて、古くから北海道に定着し、北海道の木材産業を支えてきた広葉樹産業を発展させていくことも不可欠と考えています。

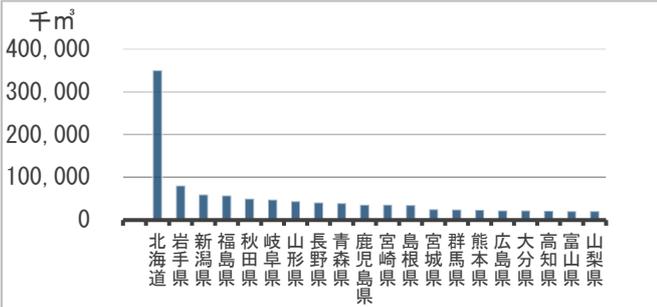
このため、北海道森林管理局では、間伐を行う人工林内に点在する広葉樹の更なる有効利用や未利用樹種の利用の可能性を検討することによって、貴重な広葉

樹資源の有効利用と広葉樹の安定的な供給に向けた取り組みを更に推進していく考えです。

●用語解説●

(※1) 突き板：木材を厚さ1mmほどに薄くそいだ板。通常、見栄えのよい上質な木材で作られ、合板などの化粧張りにも用いる

(※2) CLT：(Cross Laminated Timber：直交集成板) ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル



「森林資源の現況」樹種別年齢別蓄積(平成24年3月31日現在)

都道府県別天然林広葉樹の蓄積(上位20道県)

北海道の代表的な樹種の特性と用途

樹種名	特性	用途
ヤチダモ	成長が良いと、重硬、悪いと軽軟となる。	家具、器具、合板、内部装飾材 など
ミズナラ	着色性に優れ、強度が大きく、重厚感がある。北海道のものが良質とされている。	洋風家具、器具、床板、運動具、洋酒樽、造船、木炭、合板、単板、車両 など
セン	加工はしやすい。とくに年輪幅の狭いものは、より加工しやすい。	家具、合板、器具、建築、下駄 など
ウダイカンバ	北海道では、心材部の赤みが強く大きいものをマカバ、弱く小さいものをメジロカバという。乾燥後狂いも少ない。加工性が高く強度も高い。	主に突き板として利用。家具材、フローリングなどの内装材、ドアなどの建具 など